

はじめの一步②

8月29日(火) ~ 30日(水)

IN 明石市立少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設まで移動	海遊び	キャンプファイヤー
2日目	清掃・野外炊飯	施設を出発・解散	

一日目： 夏休み最後のキャンプが始まりました。施設で全員が揃い、グループ発表を行いました。一緒に来た友達とグループが分かれた寂しさや、初めましてのメンバーばかりの中で緊張する様子など、不安そうな表情が見られましたが、お弁当を食べ、グループ遊びが始まると、すぐに意気投合しておられました。施設に入り、入所式を済ませ、朝から楽しみにしていた海遊びの準備に取り掛かりました。着替えや持ち物を揃える事に戸惑い、少し時間が掛かりましたが、何度も確認しながら頑張っておられました。海に到着すると、我先にと水に入り、泳ぎの競争をしたり、プカプカ浮かんだり、とても気持ち良さそうでした。水分補給後は、貝殻や生き物探し、海藻集めなど、まわりの自然に目を向けた遊びも流行っていました。時間ギリギリまで思いっきり遊び、集合写真を撮って、施設へ戻りました。施設に戻ると、着替えと片付けを素早く済ませ、ほとんどのグループが自主的に布団の準備を始めていました。声を掛けに部屋へ入ると「もうやってまーす！」と元気な返事が返ってきたり、「次の持ち物は何かいる？」という声が聞かれたり、自分達で考えて行動する姿が見られました。夕食のミートスパゲッティをペロリと平らげ、その後みんなでキャンプファイヤーをしました。火の大きさに驚きながらも、ダンスやゲームを笑顔で楽しみました。消灯の直前まで賑やかな声が聞こえていましたが、電気が消えるとすぐに眠りについておられました。



二日目： 朝から施設内に元気な挨拶が飛び交っていました。朝のつどいでは、立候補したメンバーが大きな声で団体紹介をしてくれました。この日は朝食も昼食も自分達で作りました。まず、朝食のホットサンドの作り方を聞き、グループごとに作り進めていきました。食材をアルミホイルと牛乳パックで包み、牛乳パックに火を点け、温めると完成です。出来上がったホットサンドを頬張るみんなの顔から思わず笑みがこぼれていました。朝食後、一度施設へ戻り、部屋と共有スペースの清掃を素早く済ませ、昼食のカレー作りを始めました。最初は包丁係と火おこし係に分かれ、途中からはみんなでかまどの上のお鍋を見守りました。包丁係は、ピーラーや包丁を上手に使い、とても真剣な表情で野菜やウインナーを食べやすい大きさに切り分けました。火おこし係は、燃料となる薪を運び、新聞紙、細い薪、太い薪と燃えやすい順番に積み上げ、火を点けました。それぞれのミッションを達成すると、みんながかまどの前に集まり、火の番やお鍋の中をかき混ぜる役を交代で行いました。火の熱さに驚きつつも懸命に頑張っておられました。やっとの思いで完成したカレーは、とても美味しく、満足そうでした。洗い物では、最高学年の三年生が中心となり、役割分担をしていました。職員の方に褒めていただける程、きれいに洗いあげました。二日間のプログラムを全力で楽しみきったみんなは、とても遅く見えました。



<キャンプ総括>

二日間天候に恵まれ、全てのプログラムを楽しむ事ができました。プログラムの盛り上がりはもちろんです。準備や集合などがとても早く、プログラムが始まる時間までみんなで遊ぶ場面がありました。しかもグループだけで遊ぶのではなく、「入れて！」と他のグループの遊びに入り、楽しそうに走り回っておられました。プログラム以外で自分達のやりたい事が沢山できたのは、生活の中でやるべき事とみんなでやる楽しさをメンバー自身が理解しておられたからだと思います。自分の準備が終わると年下のメンバーを気遣う優しさや、教えてもらった事を懸命に頑張る姿がどのグループでも見られ、とても良い相乗効果が生まれていました。普段の学校生活や習い事など場所や立場が変わっても、みんなで楽しむ事を大事に頑張りたいです。

(生本 ひろみ)